

うめく「生」

アフリカ・赤道直下から

— 6 —



「ロディマナ・コロデ君 (9)の顔が険しい。必死の顔で、目をこらしている。4輪駆動車の後部座席に座って、記憶をたどる。横に汚れた布袋。この3年間、難民生活を強いられた。仲良しかった姉2人とは、離れ離れになったままだ。『お姉ちゃん……』。懸命にこ

殺し合い 民族の恨み深く

「叔母が両親を毒殺した」

8月、両親が殺された。姉2人と隣国、コンゴ民主共和国(旧ザール)の難民キャンプまで逃げた。ところが、昨年、逃げて先でも内戦が起り、森に逃げた。木の葉を食べて生き延びた。その途中、姉が2人とも行方不明になった。3年間の流浪の旅。祖国に帰った後、フタレの孤児受け入れ施設に入った。2時間ほど走ったところだった。この辺り、来たことを始めていた。このフロシエクトに同行し、コロデ君に出会った。

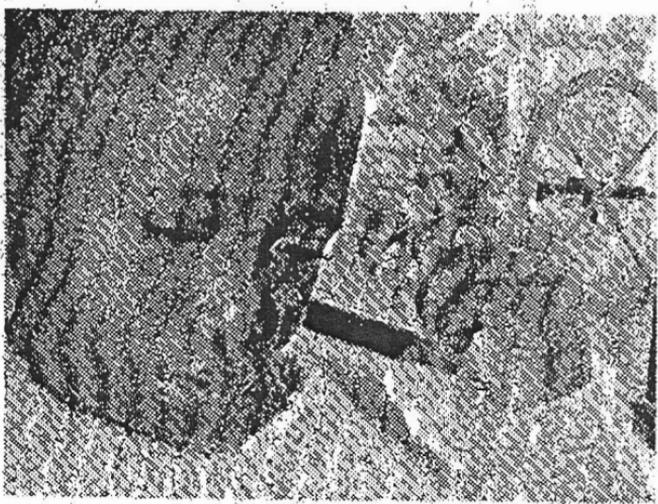
コロデ君はフツ族。94年8月、両親が殺された。姉2人と隣国、コンゴ民主共和国(旧ザール)の難民キャンプまで逃げた。ところが、昨年、逃げて先でも内戦が起り、森に逃げた。木の葉を食べて生き延びた。その途中、姉が2人とも行方不明になった。3年間の流浪の旅。祖国に帰った後、フタレの孤児受け入れ施設に入った。2時間ほど走ったところだった。この辺り、来たことを始めていた。このフロシエクトに同行し、コロデ君に出会った。

コロデ君はフツ族。94年8月、両親が殺された。姉2人と隣国、コンゴ民主共和国(旧ザール)の難民キャンプまで逃げた。ところが、昨年、逃げて先でも内戦が起り、森に逃げた。木の葉を食べて生き延びた。その途中、姉が2人とも行方不明になった。3年間の流浪の旅。祖国に帰った後、フタレの孤児受け入れ施設に入った。2時間ほど走ったところだった。この辺り、来たことを始めていた。このフロシエクトに同行し、コロデ君に出会った。

「お母さんとお父さんを殺したのは、その叔母さんなんだ」とコロデ君の顔に、少年らしい輝きは戻らなかった。

文 小倉 孝保
写真 玉置 勝巳

今年、フツ族は、ウガンダの子どものためにプロジェクトをサ



民族対立の根は深い。別れた姉のことを思い「コロデ君は涙を流した」ルワンダ・フタレで

ポートします。救済金は左記へ郵便振替が現金書留で送金したくか、直接ご持参下さい。

〒580-51 大阪市 北區稲田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「海外救済金」係(郵便振替・00997009)